

高雄日本人学校の風

校長 高口和治

2月7日 (火)

月曜日の夜に鹽水に行ってきました。(ということを中学部朝会で話をしました。) テレビでも報道されていたかもしれません。何をしにいったかということ、ロケット花火に当たりに行きました。中学部で解説をしました。鹽水は明朝末期ころは、台湾で栄えたところの一つで、港町だったのです。今は、台南市の北で完全陸地ですが、当時は海の近くで、「塩水」という地名になったらしいのです。ロケット花火は、当時病気が流行っていたのを防ぐのに始められたとのこと。今年は、龍の年なので特別に金龍を作って花火をしようという企画らしいです。ランタン祭りの一つとしてやっているらしいのです。私がもらった中国語と英語の説明書には書いていないのですが、どうも日本時代に爆竹からロケット花火へと移行していったとご飯を一緒にした台湾人(昭和10年生まれ)の方が言っていました。

2月8日 (水)

すごく寒い日でした。15度くらいまでしか気温があがりませんでした。正直、台湾にきて寒いと思った初めての日です。多くの人に聞くと、1年目は身体が慣れていくのに時間がかかり、2年目は台湾の人と同じように感じるとのこと。人間の身体はよくできていると言ったらいいのでしょうか。

卒業式練習が始まっています。(まだ、のぞいていませんが、卒業式が近づいている雰囲気が出てきています。ただ、私の場合、卒業式=雪、というイメージ、さらに、新潟県での卒業式は、3月10日前後ですので、冬から春に変わってきたという喜びも混じっていて、気持ちを切り替えている最中です)

2月9日 (木)

ほとんど、外にいたりお客様に対応していたりで、子ども達と対応をしていません。印象に残ったのは、校舎まわりをしていて、小3の授業にちょっと入ってみました。自分で授業しているのと違う雰囲気です。あたりまえですが、内容も違うし、押さえる項目も違います。また、活躍している子どもも違います。普段は、廊下から見て、授業のじゃまをしないようにしているのです。

2月10日 (金)

朝マラソンの最終日でした。最初に走った時を思い出して見ていました。特に低学年の子どもに見られます。走り方がさまになってきました。最初は、余計なところに力が入っているというか、無駄な動きが多かったと記憶しています。今日は、スムーズな動きをしている子どもが圧倒的に多く見られました。と、すると、毎年やっているのに、この

1ヶ月で上達しているように見えるということは、身体をあまり動かして（この場合は、走るということですが）いないんだろうな、ということです。

卒業式の準備が着々と進められています。業間には5，6年生が4階ホールの床にシートを敷いてくれました。お昼休みには、中学部が椅子ならべをしてくれました。

あとは、李さんが紅白幕を張ってくれます。

卒業証書も昨日できあがってきました。

日本と台湾を比べると、ずいぶん儀式として捉えている部分が違うようです。

卒業式に呼ばれて行ったときに、急に「スピーチをしてくれ」急に「表彰をしてくれ」ということになります。式にはドキドキして参加しなければなりません。4校参加しましたが、ドキドキでした。ついに、先日、鹽埕國中に春節のあいさつに行ったときに、「あいさつしなさいと言われれば、しますし、表彰をしてくれと言われれば、します。ただ、こちらに来ている限り、北京語を少しは使わないといけないと思うので、事前に言ってください。」と林さんに通訳をしてもらいました。校長先生は笑っていました。（どういう意味かは、たずねませんでした）

本を紹介します

算数脳トレーニング 朝日選書

生まれつきの能力差というものは、もちろん多少はあります。しかし、算数脳は間違いなく伸び育つものです。特に論理的思考力などは、「家庭のことばの環境」が非常に大きく反映します。（中略）一方、空間認識力や図形センスは、論理力などに比べると天性の差がつくように見えてしまう項目です。（中略）本当の能力の問題以上に苦手意識の強さによってこそ、できなくなっているのです。中学受験レベルの問題だそうです。補助線がいかに見えるかが鍵だということです。

（次号につづく）